

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆原発建て替え40年代に最大5基 政府が目標、既存設備の最大2割分

・政府は原子力発電所を2040年代までに最大5基建て替えるとの目標を掲げる。設備容量は最大550万キロワットと、既存原発のおよそ2割に相当する。運転開始から年数がたった原発を建て替え、化石燃料の輸入に依存しない電源を確保してエネルギーの安定供給につなげる。

◆日本公庫の26年3月期、2925億円の最終赤字 与信費用28%増

・日本政策金融公庫が発表した2026年3月期決算は最終損益が2925億円の赤字(前の期は2008億円の赤字)。融資先の小規模事業者や中小企業の業況が悪化し、与信関係費用が増えた。信用保証協会に提供する保険事業で、保険契約準備金の戻り益も減った。不良債権処理に備える与信関係費用は3344億円と前の期比で28%増えた。

◆スタートアップ、創業期の資金調達4割減 上場厳格化で選別強まる

・創業から間もない時期のスタートアップに資金が集まりにくくなっている。2025年の資金調達額は24年比42%減の199億円に急減し、過去10年で最低。東証グロス市場で新規株式公開(IPO)が減り、投資家による選別が強まっている。日本経済新聞社が出資する投資家向けサービスのケッブルが国内未上場新興の新株発行に伴う資金調達を集計。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆住宅ローン「超長期」急増、首都圏新築は3人に1人 家計にリスク

・一般的に35年が最長だった住宅ローン返済期間が急激に延びている。各種民間調査で長期化傾向が目立ち、首都圏新築マンション契約者は既に3人に1人が36年以上返済というデータもある。住宅価格高騰に加え、金利も上昇し、「超長期返済でなければ、もう家を買えない」という人も。

◆建設現場の廃プラ、35%はケミカルリサイクル可能 鹿島などが実証

・鹿島や日本通運など建設、物流、化学メーカー6社はこのほど、廃プラスチックの再資源化効率向上を目指した実証を完了。建設現場で出る廃プラの35%はケミカルリサイクルが可能だとした。2社のほか、竹中工務店、産業廃棄物リサイクルのリファインバースグループ、産業廃棄物処理のおおぞら(茨城県つくば市)、三菱ケミカルが参加。

◆水素活用の官民会議発足、トヨタなど参加 クルマ起点に波及目指す

・経済産業省は燃料電池車(FCV)などで水素の活用拡大を目指す「水素大動脈構想実現会議」を立ち上げ。初回の会議にはトヨタ自動車などが参加し、62の企業・団体が燃料や原料に水素を1%使うとの目標を宣言。水素大動脈構想は福島県から福岡県まで商用FCVによる輸送網を整える計画で、経産省も後押しする。

《 注目商品 》

■奥行き15cmで設置できるコンパクトな手洗器

・ミラタップは、奥行き15cmとコンパクトで、玄関や廊下などに設置できる手洗器「ルメロ」を発売。「ミニマムラグジュアリー」をコンセプトにした壁付け手洗器。マットな質感とほどよく丸みを帯びた形状が内装・家具と調和。



■見付け幅5.5ミリ、壁と一体化するノイズレスな室内ドア

・ミラタップは、ノイズレスデザインにこだわった室内ドア「リミナル」を発売。隠し丁番と埋め込み式取手を採用し、丁番・扉・取手を同色で統一。独自構造により、扉と壁の段差を最小限に抑え、見付け幅を5.5mmにすることで、壁と面一につながる納まりを実現。



■HiKOKI、振動を低減したコードレスセーバソー

・高耐久・低振動な「コードレスセーバソー CR 36DSA」を発売。独自技術の「リニアガイド式カウンタウェイト」「ローラーサポート構造」を採用。1つのギヤに2つの出力軸を設け、互いに反対方向へと動作させることで切断時に発生する振動を効果的に抑制する。

